～2学期を振り返って～

2学期は様々な活動を行い、それらの学習を通して、たくさんの成果を得ることができました。
北海道教育大学札幌校での地域販売、福祉サービス科との合同カフェ、近隣高齢者施設での製品販売、ほっこりふれあいプロジェクトへの参加など、校外での活動に意欲的にチャレンジしました。
また、大きな行事『学校祭』では、3学年全員で力を合わせて、学科企画販売会を開催しました。計画や準備段階から生徒同士で話し合い、工夫しながら進めていました。全員が一つの目標に向かって一生懸命取り組む姿は大変頼もしく、成長を感じました。
経験して気付いたこと、学んだことをこれからの活動にも生かしてしいと考えます。　（文責：西木）

現場実習

【第3学年：9月】
卒業後の進路先を決めるための大切な実習です。
約1ヶ月間の実習では、「自分のもっている力を出し切る」「採用してもらえるように〇〇を頑張りたい」「生活リズムを安定させる」など自分の目標を意識しながら取り組みました。

【第1学年：10月】
初めての実習。学校ではできない仕事を経験し、成果や自分の課題を確認できました。
しっかり振り返りを行うことで、自分の進路に対する考えや今後の希望が少しずつ見えてきたのではないかと思います。

【第2学年：10.11 月】
今年度 2 回目の実習でした。前期実習を終え、後期に向けて新たに目標を掲げて臨みました。
2回の実習を終えて、2月にはいよいよ将来の進路先を考えるタイミングが訪れます。自分の気持ちと向き合い、‘自分で決める’進路にしてほしいです。

現場実習報告会後の学科交流会の様子

3学年生徒から 1，2 学年生徒に向けて、実習先を決めた経緯や実習での経験など進路にまつわる話しをしました。生徒の本音を交えた話しは、同じ悩みを抱えている1，2学年生徒にとって、とても心強く、参考になった様子でした。
全員が現場実習を終えたタイミングで、身近にいる先輩から生の声を聞く機会は今後の進路選択や自分の目標をより明確に考えるきっかけになったことと考えます。

10 月　第2、3学年「北海道教育大学札幌校販売会～パンタベールSHOP開店！」

数年ぶりの販売会。
販売会前に生徒がポスターを掲示したり、チラシを配ったりして宣伝活動を行いました。また、学生さんのSNSツールで事前告知をしていただきました。
当日は、3学年がパンを、2学年がパウンドケーキを製造し、大学の玄関ホールを会場に2学年生徒が販売活動を行いました。沢山の学生さんに並んでいただき、製品はあっという間に完売しました。
生徒たちは、長い行列にやや興奮状態でしたが、明るい笑顔を忘れず、落ち着いて接客することができました。関係者の皆様、販売会に係わり御協力を賜り、誠にありがとうございました。

〔会計を待つお客様〕

〔トレーお渡しの様子〕

11月　第1，3学年「ほっこりふれあいプロジェクト」

　北海道庁で行われた「特別支援学校ほっこり ふれあいプロジェクト」に参加し、製品販売を行いました。この日に向けて1学年は‘ベイクドチーズケーキ’を 100 個、3学年は‘ディヤマンクッキー’を 216 枚焼きました。

　3学年生徒にとって、校外販売は初めてでしたが、校内販売の経験を元にお客様の応対がスムーズにできました。一方、「ケーキの保存方法は？」などの質問に戸惑う場面もあったので、今後は臨機応変さが必要だと感じました。

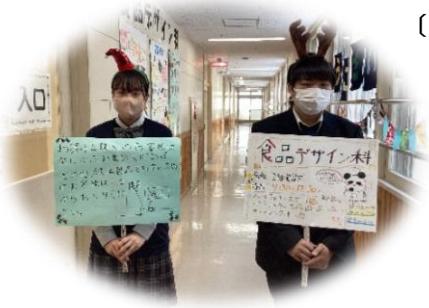
　お客様から「丁寧な言葉遣いだね」、「食べるのが楽しみだわ」などの励ましの言葉を掛けていただき、とても嬉しそうでした。生徒たちにとって次回につながる良い活動になりました。

〔販売会の様子〕

12月　「学校祭」

〔三学年合同の製造の様子〕

〔窓装飾〕



〔手作りプラカードで呼び込み〕

　生徒は製造、会計、装飾の3グループに分かれて準備活動を行いました。

　会場をクリスマスの雰囲気に仕上げ、廊下の壁や窓ガラスには商品POPを貼り、お客様を迎える準備はバッチリ！製造グループはラベルをデザインしたり、パウンドケーキなどを製造したり、全員で協力して当日を迎えました。

　当日は保護者や卒業生、旧職員などたくさんのお客様に御来店いただき、商品を手にとっていただきました。

　学校祭後の振り返りでは、「来年は先輩として後輩と一緒に頑張りたい」「次は製造を担当してみたい」など来年に向けての抱負が聞かれました。

第1，2，3学年「らくら拓北販売会」

〔販売のにぎわい〕

〔接客の様子〕

　現場実習の受け入れや卒業生が働いてお世話になっている「有料老人ホームらくら拓北」に製品販売のため訪問させていただきました。今回は2，3年生がケーキやパンを焼き、1学年生徒が販売を担当しました。高齢のお客様に対する言葉掛けや商品お渡しのタイミングが難しかったようですが、「お客様の耳元で伝えるようにしました」「言葉遣いに気をつけました」など自分なりの応対を考えて行動できたようです。お客様だけでなく、職員の方々にも温かく迎え入れてもらい、「緊張したけれど、訪問できて良かった」「帰り際に美味しかったと言われて嬉しかった」と感想をもっていました。